

令和3年度 第1回瀬戸内市地域公共交通会議 会議録要旨

開催日時：令和3年8月31日（火）14時00分～15時30分

開催場所：瀬戸内市役所 2階 大会議室

出席委員：大東会長（ノートルダム清心女子大学 人間生活学部）

田野副会長（瀬戸内市副市長）

大上委員【代理：平本氏】（両備ホールディングス（株））

佐藤委員（東備バス（株））

尾崎委員（（有）ツルヤタクシー）

坂本委員【代理：重田氏】（（有）ネイチャーワールド自動車）

元浜委員（瀬戸内市商工会）

秋山委員（瀬戸内市観光協会）

中尾委員（瀬戸内市老人クラブ連合会）

角房委員（生活交通網をつくる会）

桐畑委員【代理：近重氏】（西日本旅客鉄道（株）岡山支社）

三枝委員（一般社団法人 瀬戸内市緑の村公社）

山中委員【代理：可兒氏】（中国運輸局岡山運輸支局）

竹本委員（岡山県県民生活部 県民生活交通課）

杉田委員（備前市市民生活部）

住田委員（瀬戸内警察署）

池上委員（備前県民局建設部管理課）

出席委員 17名 随員 1名

委任状提出委員 3名

事務局：企画振興課 岡崎（部長）、青砥（課長）、木村（主査）、鈴木（主事）

1. 開会

※委員の委嘱（令和3年4月1日付で2年間の任期）

※新たに就任した委員の紹介（9名）。

※会長・副会長・監事の選任。

会 長：大東委員（ノートルダム清心女子大学人間生活学部）

副会長：田野委員（瀬戸内市副市長）

監 事：元浜委員（瀬戸内市商工会）、秋山委員（瀬戸内市観光協会）

2. 会長あいさつ

※瀬戸内市の公共交通網、民間路線バスや鉄道などの交通事業者が新型コロナウイルスの影響を受けているが、買い物や病院へ通う方のために運行を続けていかなければならない。

※コロナ収束後も続けて利用していただくために、公共交通機関の存続をいかにしていくかということを議論して頂きたい。

※本日の会議においても、非常に厳しい状況にある公共交通機関をどうしていくのかというところを中心に前向きな議論をして頂きたい。

3. 協議事項

(1). 令和2年度瀬戸内市地域公共交通会議決算について（報告）

---資料（決算書、監査結果報告書）により、事務局から説明---

《主な説明事項》

- 令和2年度 瀬戸内市地域公共交通会議決算書
- 監査結果報告書

会長 ご意見、ご質問はあるか。
 ～特になし～

(2). 地域内交通について

---事務局から資料（p1~4）について、前島地区の地域内交通について説明---

《主な説明事項》

- 前島地域内交通実証事業 概要、事前アンケート調査、利用状況

会長 ご意見、ご質問はあるか。
 事前アンケートについて、導入後もアンケートを取る予定はあるか。
事務局 時期は未定だが、導入後のアンケートも行う予定である。

- 会長 新しい設問を設定してもいいが、導入前後で比較できるデータを取って頂きたい。
- 委員 個人的には当初想定していた利用者数を大幅に上回っている状況である。自家用車を運転しているが運転に不安がある方もこの公共交通を利用して本土側へ移動している。住民の女性から前日に電話予約しないといけけないのが、恥ずかしい、嫌だという意見を聞いている、対応できる方法があれば検討して頂きたい。前島地区は、各戸への新聞配達がないため、新聞を取っている家庭は、時間が空いた時に港へ取りに行くシステムで、その方法であるという理由で新聞をとることをやめた方から新聞をとりに行くために前島バスを使いたいといった意見が挙がっている。また、週 1 回でもいいので、島から邑久の方まで乗換えなしで移動でき、買い物にでかけることができる便が欲しいといった意見も聞いている。利用者数が想定より多いのは、自分が年をとっていくにつれて移動に対する不安が大きくなることも要因のひとつだと思われる。利用が少ないと廃止になるといった不安があるため、継続して運行して頂けるように利用したいという意見も頂いている。
- 副会長 実証実験とのことだが、将来的にどうなるのか。
- 事務局 令和 4 年度まで実証運行し、令和 5 年度から本格運行を実施したいと考えている。
- 委員 将来的には有料化も考えており、難しいかもしれないが、属性によって運賃を区別するやり方を検討する必要がある。特に前島住民の利用については負担にならないような仕組みにできるように検討したい。
- 委員 島の住民が利用しやすくなるように、島の住民や三枝委員の意見を聞いて、運行改善をして頂きたい。

---事務局から資料（p5~8）について説明---

《主な説明事項》

- 瀬戸内市公共交通運行継続支援金
- 市営バス事業 乗降者数の推移、1日乗車券の利用状況、行き先表示の改善
- タクシー活用事業 瀬戸内市のタクシー助成制度の整理

- 会長 ご意見、ご質問はあるか。
- 委員 市営バスの西脇 - 邑久駅線で鹿忍地区を運行して頂いて、非常にありがたい。鹿忍地区で利用する方は決まっているが、鹿忍地区の住民ほとんどが利用できると思う。鹿忍だけでなく、千手、上山田、下山田の方

も利用されていると思う。

タクシー助成券の種別ごとに金券の額面は同じか。また、瀬戸内市内である場所から乗って、ある場所で降りた場合は一律して 500 円で利用できるのか。

事務局 1 枚 500 円となっていて、各制度で額面は同じである。一律 500 円で利用できる制度ではなく、例えば、運賃が 1500 円の区間を利用した場合には、500 円券を 3 枚利用することができる。

委員 1 乗車が 500 円になると思っていたが、運賃に応じて 500 円券を複数枚利用できるということで理解した。もしも 6 枚必要な区間で、6 枚全てを利用したならば、利用後はどうするのか。

事務局 4 月に申請して頂くと、年間で 72 枚交付する。交付された月から翌年の 3 月までの間で、その使い方は自由となっている。

委員 タクシー運賃の額面が各制度で統一されているのは納得できる。利用している人は決まっていると思うため、利用する人が便利になるような制度へ工夫してみてはどうか。

事務局 今後検討していきたい。

会長 その他ご質問はないか。

11 月から 1 日乗車券を運用され、自治体間をまたぐ路線でトラブルなどはないか。市営バスの 1 日乗車券は 200 円であり、他の自治体などの路線バスと運賃体系が違うため、クレームなどが来ないか気になり、質問した。

事務局 現時点では特にはない。

会長 瀬戸内市営バスは、一部備前市をまたぐ路線はあるか。瀬戸内市内で完結か。競合することはないか。

事務局 美和線の一部備前市を走っているが、競合などを起こすことはない。

委員 資料 8 ページのいきいき長寿課の高齢福祉タクシー利用券は、企画振興課の制度との関係性はどうか。

事務局 制度として、重複利用ができないため、今年度 253 人の申請者において、いきいき長寿課の高齢者福祉タクシー利用券の要件に該当すれば、来年度からは優先的にそちらを利用して頂くことになる。

委員 高齢者福祉タクシー利用券は、岡山県タクシー興業へ提出すようになっている。瀬戸内市との関係がどのようになっているのか。

事務局 いきいき長寿課から伺っているのは、各タクシー事業者が、岡山県タク

シー興業へ提出し、最終的には、一括して瀬戸内市へ請求が来る流れである。

委員 タクシー興業に清算を依頼した場合、手数料が発生すると聞いているがどうか。

事務局 手数料が発生するとは聞いているが、具体的な金額は分からない。

委員 手数料が発生する場合、瀬戸内市もしくは運行事業者のどちらが支払うのか知りたいため、質問した。この件については、いきいき長寿課へ確認する。

委員 大富 - 邑久駅線の南・北の 2 路線とも、他の路線の利用者数と比較すると極端に少ない。生活に必要な路線ならば問題ないと思うが、税金で運行しているため、念のため質問する。

事務局 大富 - 邑久駅線の南・北の 2 路線とも利用者が少ないことは認識している。事務局としては、市営バスの西脇線も最初利用者が非常に少なかったが、コース変更を実施するなどして、徐々に利用者が増加した事例があるため、引き続き利用促進策を実施することで、利用者数を増加させたい。

委員 2 路線にしている理由はあるか。

事務局 大富駅を境に北側と南側の 2 路線を設定している。南線は大富駅～上寺東ハイツ～畠山製菓入口～ナフコ～邑久駅を結ぶ路線になっている。北線は大富駅～福山公会堂～福元～豆田～下笠加～北池公民館前～邑久駅を結ぶ路線になっている。

委員 ルート図を見ると、北と南でルートに分けるのは仕方がない。

事務局 現時点では 2 ルートになっているが、もしかしたら統合して循環線にする発想を持っておられるかもしれない。

委員 個人的には統合して循環線にと思ったが、路線が長くなるため運行が難しい。

事務局 もし統合し内回り・外回りの循環線を設定した場合、車両台数など運用面からも難しいと考えている。

会長 令和 3 年の 5 月の利用者の落ち込みの原因は何か。

事務局 5 月においては大型連休による運行日数が少ないことや、緊急事態宣言が 5 月 16 日から発令された影響だと考えている。

会長 3 月の利用者が多い原因は何か。

事務局 春先の出かけやすい季節になったためだと考えている。

(3). 路線バスの維持確保について

---事務局から資料（p9-10、別添）について説明---

《主な説明事項》

- 両備バス路線の維持に向けた協議について

会長 両備バスから何か説明することがあるか。

委員 事務局から弊社のバス路線の維持について厳しい状況を説明して頂いた。弊社から提案させて頂いた令和3年10月1日のダイヤ改正の内容が10ページに記載されている。減便を伴うもので、沿線住民の方にはご迷惑をおかけすることがあると思う。弊社の経営状況及びお客様の利用状況を踏まえ、一定数の利用がある区間は残しつつ、利用が少ない区間を減便している。別添のホチキス止めの資料が具体的なダイヤ改正案となっている。

(---資料の見方の説明---)。

詳細はこちらの資料で確認頂きたい。減便の背景は、前回の交通会議でも説明させて頂いたように、新型コロナウイルスの影響で昨年以來、利用者数の低迷が続いている。路線バスだけでなくバス事業全体の問題であり、新型コロナウイルスが蔓延する以前は、地域の交通は赤字の事業でありながら、高速観光バスで利益を確保し、地域全体の公共交通を運営していた。新型コロナウイルスが蔓延し、観光事業が無くなり、都市間移動の高速バスの利用も激減したことで、バス事業における黒字部分が無くなった。この状況は先行きが不透明である。弊社の当初の事業計画では、夏季オリンピックやワクチン接種の拡大により需要喚起や利用回復を見込んでいたが、想定を上回る影響があり、経営状況は大変厳しい状況である。その中で、弊社も厳しい判断を迫られており、3月の会議において、どうやって地域の交通を確保するかということを発表させて頂いた。その中で、半年後、1年後をどう乗り越えるか、いかに交通を残すか議論させて頂いた。弊社としても課題認識しているのが、牛窓～邑久駅～西大寺（北回り）、虫明・愛生園の2路線である。牛窓～邑久駅～西大寺（北回り）は、お客様の7割が邑久駅～牛窓間の利用となっている。今回のダイヤ改正は、邑久駅～牛窓間は増便、牛窓～西大寺間の直通便は減便となっている。この10月のダイヤ改正から市民の方が多く利用している区間をきちんと残していく。減便を行った上でも、弊社単独で路線を維持していくことは厳しく、市からの追加支援を検討して頂いているが、1年先を目途に市営バス化の具体的な議論に入らせて頂きたい。牛窓～邑久駅～西大寺（北回り）

は、岡山市～瀬戸内市を結ぶ路線であり、国・県からご支援頂いている地域間幹線系統であるため運行は継続し、1年後にどう残していくかをしっかりと議論したい。

虫明・長島愛生園線は利用者が少なく、路線の維持が非常に厳しい状況である。従前の7往復から10往復に増便し、それに対して瀬戸内市からご支援頂いていたが、この状況では路線の維持が難しい。弊社実施の乗降調査結果では、1便あたり10人を超えてくる便がほとんどない。朝は裳掛エリアから小学生が乗車しているが、その便を除けばかなり利用者が少ない。この路線は来年度からの市営バス化を含めた議論を具体的に進めたい。

委員 説明を聞いて、脅されている気がする。1、2年後には補助金があっても路線を引き上げると聞こえた。この委員会で補助金額が決まるわけではない。この会議だけでは決めることができないだろう。路線を維持するために必要な金額などは決定権がある人と調整して頂きたい。個人的に感じたことを発言した。

会長 苦しい状況をお話し頂いた。そのまま放置することはできないため、スケジュールの中で普段利用されていた方が利用できなくなったときにどうしていくか、あるいは路線バスと市営バスが違う運賃体系で運行していて、路線バスと市営バスが協力すれば200円で移動できるが、400円払わなければ移動できないなどの状況を変えていくためのアイデアを出しながら、この会議では前向きな検討ができればいいと考えている。

副会長 ここだけでは決まらない問題ではある。事務局や両備ホールディングスから具体的な話が出ていたが、どういった形で進めるか、どういう方向性にするか少しずつ議論している状況である。この会議でも委員の皆さんからも意見を伺いながら検討したい。

委員 観光の視点から発言する。観光業界や両備ホールディングスはコロナウイルス感染症の大きな打撃を受けている。新型コロナウイルス感染症が収束した場合は、また路線が復活できることを期待している。両備ホールディングスからも話があったように、今まで生活ルートを観光でカバーしてきたが、だめになって来ている。こんな時だからこそ観光ルートを生活ルートに組み込んでほしいと考えている。備前市の観光協会と調整している。今まで観光では瀬戸内市と備前市がつながっていなかったが、そこをつなげて新しいルートを作ることで新しい需要と利益を得られるようになるのではないかと。もう1つは、生活ルートに観光ルートを組み込んでどうか。例えば、刀剣博物館と生活ルート

を上手に組み合わせられないか。個人的な話ではあるが、年間 70 万人くらい来訪者がいて、市営バスの利用も増加し、積み残しが出るくらいである。新ルートの検討が必要ではないか。

マイナス思考ではなく、新しいことを考えるとチャンスがある。長期的な考えではあるが、牛窓～邑久間の利用者数を増やすために牛窓地区に人口が増えるような取り組みをしたい。瀬戸内市に欠落している産婦人科と児童養護施設を作れば、子供たちも増え、利用者数が増えると考えている。利用者がいないと運営ができないのは当たり前なので、長期ビジョンの中で検討して頂きたい。

委員

個人的な話ではあるが、私は昭和 17 年生まれの 79 歳である。鹿忍の人で両備バスを利用したことがない人はほとんどいないと思う。北回りの利用者が多いのは学生が多いためである。子供が利用する路線を廃止するのはもつての外だと思う。両備バスの話だと 1 年間はそのままでも運行できるように聞こえたので、その間に瀬戸内市としっかり議論して頂きたい。利用者が少ないから公共交通事業者が運行を取りやめることについてはどこの市町村でも頭を痛めている。近隣では和気町も様々な取組をされている。議会や予算措置なども必要であるため、この会議では決定できないが、この会議でこういう意見があることは後押しにはなると思う。両備バスにも少々赤字で頑張ってもらって、存続するという目安を立ててほしい。

事務局

お話しにあったように公共交通は地域にとってなくてはならないもので、これを失うということはさまざまな市民へ影響が出る話である。一番影響がでるのは市民の方であるということを前提に、皆さんのご意見をもとに両備ホールディングスと議論していきたい。この会議では路線の維持が重要であるという意見を頂いたと認識しており、両備ホールディングスと協議しながら、市全体の公共交通をどう維持していくか検討したい。

委員

路線バスの乗車人数は対前年比でバス事業 90%、タクシー事業 70%という状況である。従来は路線バスを維持するために貸切バスで利益を生み、赤字の乗合バスを運行していたが、コロナウイルスの影響で運行が厳しい状況になった。今回提案させて頂いた、減便はランニングコストを下げつつ、赤字を少なくしていくことを目的にしている。「乗って残そう公共交通」ということで、地域をあげて利用して頂き、路線を維持して頂きたい。

会長

市営バスとの連携などもできることがあれば検討して頂きたい。何か意見はあるか。

委員 前島については、島民の方が喜ばれていると聞いている。前島の住民だけの移動で維持するのは難しく、前島をどう活性化させるか検討して頂きたい。両備バスの路線再編については、利用者数を聞くと交通にとって逆風のときに利用者数を増やすのは難しいと考えていた。両備バスと市営バスが連携して、瀬戸内市内の交通網を形成できないか考えていた。

会長 その他にご意見などはないか。貴重なご意見ありがとうございました。存続に向け、会議の中で様々な意見を頂き、さらに便利な公共交通を形成していくことができると考えている。本日の議事は以上とする。

4. その他

※特になし

5. 閉会

副会長 コロナの影響による利用の減少、それに加えて地方における路線バス事業の問題、今後のバス路線の維持についての問題提起をいただいたところである。先ほどから話しているように、どのような形で地域公共交通を維持できるか深く事業者様と協議調整しながら進めてまいりたい。引き続きよろしく願います。

以上